

「8 明日のためにわたしたちができることをしよう」

学習のねらい：復旧・復興のために、自分たちができること、しなければならないことを考える。

（指導上のポイント）

- ◆被災地では、時間とともに支援すべき内容が変わってくるので、被災地が求めているものを見極めることが重要であることを指導する。
- ◆ボランティアは基本的に必要な物品は自前で揃えるなど自己完結が原則となることを指導する。
- ◆活動によっては危険な場合もあるので、必ずボランティアセンター（社会福祉協議会等が運営）の指示や注意等に従うことを指導する。
- ◆被災地では、被災した方々の気持ちやプライバシーに十分配慮し、マナーある行動と言葉づかいでボランティア活動に参加するよう指導する。
- ◆ボランティア活動の目的は、被災者の自立支援にあるので、被災者・被災地の回復具合をみながら、活動を行うことを指導する。

（指導上のポイント）

- ◆震災等の記憶を風化させないように、自分たちが発信することの大切さを指導する。

（次年度以降の展開例）

- ・被災地の生徒の手記等を読ませる。
 - ・災害の記録や記念碑などについて調べさせる。
- などが考えられる。

8 明日のためにわたしたちができることをしよう

(1) 災害時のボランティア活動について

①あなたがボランティア活動に参加するとしたら、どのような活動を行いますか。なお、被災した家の片付け、仮設住宅での被災者の話し相手など、災害から時間が経つにつれて必要とされる活動の内容は変化していきます。

救援物資の搬入・仕分け、水や食料の配布、被災した家の後片付け、手話や外国語の通訳、小さな子どもの世話、お年寄りの手伝い など

②ボランティア活動を行うにあたり、どのようなことを心掛けますか。

- ・事前に被災者の求めるものを調査する。
- ・被災者に配慮した活動を心がける。など

③被災者のためになると思ってる活動が、かえって復旧・復興の妨げになる場合があります。どんなケースが該当するか書きましょう。

- ・仮設住宅で炊き出しを行うことで地元の店の客を奪う。支援物資を送り続けることで被災者の自立を妨げる など

(2) 災害を記録し、校外に発表すること

災害について、被災地から校外にメッセージを伝えることは、これから起こりうる災害による被害を小さくするために重要です。あなたの地域が被災した場合、校外にどのような方法でどのようなメッセージを伝えますか。

二度と同じ被害を繰り返さないように、防災訓練に真剣に取り組むことの大切さを交流事業など通じて発表する。多くの支援に感謝する。 など

話し合ってみよう!

ボランティアなどの支援活動に使われる募金のことを「支援金」といいます。被災者の方に配られる募金は「義援金」といいます。今、東日本大震災と同じような規模の災害が発生したら、あなたは、支援金と義援金のそれぞれに、どれくらい募金するか話し合ってみましょう。

15

（議論のポイント）

義捐金と支援金の仕組みを調べる、東日本大震災で集まった額を調べる。等

（確認）

生徒は、ボランティアに積極的に参加する大切さを理解できたか。